

科目名	教育制度	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	
						試験	60%
担当者	小林 建一	単位数	2	学年・期間	2 年 後 期	レポート	—
						提出課題	—
						授業態度・意欲	10%
						小テスト	30%
授業のねらいと概要	教育制度に関わるさまざまな歴史的・法制的・時事的な問題や課題について学び、視野の広い保育者として必要な知識・教養を身につけるとともに、教育・保育実務に対応できる基礎的な態度や能力の形成を目指す。テキスト・プリント等による学習を中心とするが、必要に応じて討議や発表等を行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育制度の基本的な知識を身につけ、教育を制度面から理解できるようになる。 ・教育への法や政治などのかかわり方について思考し、判断する能力が身につく。 ・制度に対する批判や制度のあるべき姿について自らの考えを表現する力が身につくと同時に、学習成果を教育・保育の現場において活用する技能の基礎が培われる。 ・子どもの権利を保障する教育のしくみへの関心・意欲・態度が育つようになる。 						
学習者への期待(含準備学習)	授業中に生じた疑問点等については質問し、グループ討議に積極的に参加するなど、学習への意欲的な取り組みを期待する。						
回	授業計画	授 業 内 容					
1	公教育と保育制度	私事と公制度としての保育、保育にかかわる免許や資格【あらましを説明し、相互の関係を整理するワークを課す。】					
2	子どもの権利と法	子どもの権利と憲法、法律、条約、憲章のかかわり【各関係を対話方式で明らかにし、子どもの教育にとっての意味を探究させる。】					
3	就学前教育制度について	幼保二元体制、幼保一元化【関連資料を参考にしながら、自分なりに制度を構想し、記述するワークを課す。】					
4	義務教育制度について	義務の意味と種類、義務教育の目的と目標【内容を説明し、自己の体験からこれらの制度のもつ意味を考え、発表する機会とする。】					
5	学校教育のあらまし	初・中等教育、高等教育、特別支援教育、私学教育【あらましを説明し、自己の体験に照らしてこれらの制度のもつ意味を考えてもらう。】					
6	社会教育・生涯学習のあらまし	社会教育・生涯学習とは【内容を説明し、学校教育以外の教育の役割と課題を探究させる。】					
7	教育行政	教育行政とは、中央教育行政組織と教育委員会制度【関連資料を用いて知識を整理するワークを課す。】					
8	いじめと法	いじめをめぐる法的関係と法的措置【いじめの事例から、グループごとに法的対応について考え、発表し批判し合う機会とする。】					
9	体罰と虐待の法律問題	懲戒・体罰、虐待への法のかかわり【事例や映像資料にもとづいて実態をとらえ、法による対処のスキルを身につけさせる。】					
10	保育者と労働問題	保育者の労働権とサービス、保育者の勤務条件【関連資料により知識を整理するワークを課す。】					
11	保育事故と法的責任	幼稚園・保育所における事故防止の責任、事故発生時の法的責任【関連資料により知識を整理するワークを課す。】					
12	幼稚園の教育経営(1)	幼稚園経営の基本、幼稚園の組織と役割、教育課程の運営【テキストをもとに理解し、グループで疑問点を述べ合う機会とする。】					
13	幼稚園の教育経営(2)	園長の役割、幼稚園教諭の役割、担任の職務【テキストをもとに理解し、グループで疑問点を述べ合う機会とする。】					
14	幼稚園の教育経営(3)	クラス運営、表簿の作成・管理、保育評価【各自のクラス運営を仮想し、グループで意見交換する機会とする。】					
15	幼稚園の教育経営(4)	物的環境の管理と安全、園児と教員の健康管理、家庭・地域とのかかわり【重要ポイントについてのグループワークを課す。】					
テキスト	谷田貝公昭・高橋弥生編著：『幼稚園の教育経営』（一藝社）						
参考文献	『保育六法（第3版）』（信山社） 高見茂・宮村裕子・開沼太郎編：『教育法規スタートアップver.2.0』（昭和堂）						

科目名	福祉基礎理論	必修・選択	選 択 (保資必修)	授業形態	講 義	評価の方法	
						試験	80%
担当者	藤原 法生	単位数	2	学年・期間	1 年 後 期	レポート	—
授業のねらいと概要	社会福祉の基本的理念や対象・制度について学ぶ。現代の福祉問題・対象者とその支援について、普段の生活に関連付けながら講義を行う。						
到達目標	社会福祉の基本的理念を理解することができる。各種制度や社会資源に関する知識と活用方法を理解することができる。普段の生活と社会福祉の関連性についての関心が高まる。						
学習者への期待 (含準備学習)	福祉問題とその対象者について、偏見のない正しい理解をしてほしい。新聞記事、ニュース、身近な事柄をとおして、社会福祉に関心をもってほしい。						
回	授業計画	授 業 内 容					
1	オリエンテーション	福祉とは何か、社会福祉の理念、社会福祉と児童家庭福祉					
2	現代社会の理解	少子高齢社会、家族と地域の変化					
3	社会福祉の歴史	日本と海外の社会福祉の歴史					
4	社会福祉の行政と財政	国と地方の行財政					
5	社会福祉の制度と実施体制(1)	公的扶助(公的扶助と社会保険、生活保護の目的・原理・原則)					
6	社会福祉の制度と実施体制(2)	公的扶助(生活保護の種類と内容、実施体制、動向)					
7	社会福祉の制度と実施体制(3)	高齢者福祉(高齢者の理解、高齢者福祉の理念、法体系)					
8	社会福祉の制度と実施体制(4)	高齢者福祉(介護保険制度)					
9	社会福祉の制度と実施体制(5)	障がい者福祉(障がいの理解、障がい者福祉の理念)					
10	社会福祉の制度と実施体制(6)	障がい者福祉(障がい者福祉対策、法体系、総合支援)					
11	社会福祉の制度と実施体制(7)	社会保障制度(医療、年金)					
12	社会福祉の制度と実施体制(8)	福祉のマンパワー、相談援助					
13	社会福祉の制度と実施体制(9)	利用者保護(情報提供、第三者評価、権利擁護、苦情解決)					
14	地域の福祉(1)	地域福祉(地域福祉の理念、コミュニティ)					
15	地域の福祉(2)	地域福祉(住民参加、地域福祉の展望)					
テキスト	直島正樹・原田旬哉編著：『社会福祉』(萌文書林)						
参考文献	なし						